

工事等の入札・契約に関する意見書

平成 28 年 3 月 18 日

札幌市入札・契約等審議委員会

1 適切かつ健全な入札環境の整備について

公共調達においては、良質な社会資本整備の実現に向け、適切な入札環境の整備が常に求められており、いかなる入札・契約制度の下にあっても、競争性・公平性・透明性の確保はいずれも欠くことのできない重要な要素である。

札幌市では、従前より、くじ引き対策、過度な競争環境の緩和、不正の排除、緊急経済対策による最低制限価格等の引上げ、入札不調への対処等、その時々課題に対して、関係団体からの意見・要望を踏まえつつ、競争性・公平性・透明性の確保に配慮した措置を講じてきた。

今般、札幌市を中心とする地域において社会資本整備の担い手となるべき事業者(地域事業者)が、その優良な実績を適切に反映させることができるよう、入札参加要件に関する運用基準を見直すとともに、品質確保に有益な総合評価方式の活用拡大を図るための制度改正を実施したところである。

災害対応等、安心・安全な地域生活の維持に不可欠な地域事業者等の育成に配慮することは発注者の責務であり、このことは「公共工事の品質確保の促進に関する法律(品確法)」に定められた、長期的な視野からの品質確保の理念にも適うものである。他方、行き過ぎた地域重視は、公正かつ自由な競争を制限するおそれがあることから、適切な制度構築により、地域経済の健全な発展に寄与することが重要となる。

また、札幌市では、ほぼ全ての委託業務の入札において、最低制限価格でのくじ引きにより受注者を決定している実態に鑑み、新規雇用、人材育成、機器の更新等に係る費用の確保に配慮し、最低制限価格を引上げることをとした。これは、全国的にも先駆的な取組であり、実効性のある改善措

置として、品質確保に繋がると考えられる。

入札・契約制度は、社会の動きや環境の変化に的確に対応して改正すべきものであり、今後とも、様々な視点から入札結果を検証し、制度改正の効果や影響を見極めつつ、不断の取組みを進めることが肝要である。

以上を踏まえ、次のとおり提言する。

- (1) 多角的に入札結果の検証及び分析を行い、傾向を把握すること。
- (2) 適切な入札環境の整備に向けた取組みを継続して実施すること。

2 公共工事等における品質確保の促進について

まちづくりの根幹をなす社会資本整備は、安全で快適な市民生活の基盤となるものであり、公共工事等においては経済性の追求とともに品質確保が極めて重要となる。

札幌市では、品質確保を図る入札方式として、工事等の成績上位者に参加資格を限定する成績重視型入札と、入札価格に応札者の技術力・実績・地域貢献度を加味して落札者を決定する総合評価方式を実施している。

成績重視型入札は、地域事業者の優良な実績を、評価に反映させることにより受注者を決定する仕組みである。平成24年度からは、直近過去5年間の成績平均点を用いた5年型に加え、当委員会の提言を受け、より早く実績を反映させて入札参加インセンティブを付与する2年型を導入し、併用している。しかし、一部の工事等においては、品質確保に加え優良な地域事業者に対する入札参加インセンティブの付与という、制度趣旨が十分に発揮されていない事例も見受けられる。

また、入札の透明性を確保する観点から設計単価等の公表を積極的に進めたところ、総じて入札参加者の積算精度が向上し、特に土木系工事の入札においては、くじ引きによる受注者決定が恒常的に発生する事態に陥っている。

このような入札環境の中、品質確保に対する地域事業者のモチベーションを上げていくためには、成績重視型入札において、優れた成果が適正かつ即時的に評価される仕組みの導入が有効と考えられる。

一方、総合評価方式においては、今年度当初に、優良な事業者の技術的能力、除排雪事業等への地域貢献、若手・女性技術者の登用等を重視して評価する型式をそれぞれ整備し、各種施策の実現を目指した結果、選択肢が増えたことにより、幅広い事業者の参入が実現し、従前からの課題であった受注者の固定化が解消されつつある。

また、このたび更なる改正を行い、地域事業者の技術力及び地域貢献度並びに若者・女性の雇用及び育成促進度を、よりの確に反映させる評価方法を取り入れた。

このように、「品確法」が掲げる理念の実現に向け、成績重視型入札や総合評価方式等、多様な入札方式を整備・活用するとともに、それぞれの制度が効果的に機能しているかについて、引き続き検証していく必要があると考えられる。

以上を踏まえ、次のとおり提言する。

- (1) 引き続き、品質確保を図る入札方式を積極的に活用すること。
- (2) 成績重視型入札や総合評価方式の制度改正の効果を検証すること。